

おおおとこ げ  
大男の話 〈下〉

- 1 大男は白い鳥を王女に戻して、王様<sup>1</sup>に返したいと思  
2 いました。そして、白い鳥を連れて森の家を出ました。大男  
3 は白い鳥に言いました。  
4 「鳥さん、泣きなさい。泣いて、涙を流したら、王女に  
5 戻って王様のところへ帰れるんだよ」  
6 歩きながら、白い鳥の頭を叩きましたが、白い鳥の目か  
7 ら涙は出ませんでした。大男は白い鳥がかわいそう<sup>2</sup>にな  
8 りましたから、目は涙でいっぱいになりました。そして、  
9 昼も夜も歩いて、王様がいる大きな町に着きました。町の  
10 人たちは大男を見て、びっくりしました。  
11 「大男はあの怖い魔女の息子だ。どうして町へ来たのだ  
12 ろう」  
13 「魔法を使うかもしれない。怖いなあ」  
14 「どうしたらいいだろう<sup>3</sup>」  
15 町の人たちは王様の所へ行って、言いました。  
16 「王様、この町はとても立派<sup>4</sup>ですが、高い塔がありませ  
17 ん。大理石<sup>5</sup>で高い塔を作りましょう」  
18 「それはいい。でも、大理石はどこにあるのか？」  
19 「ここから南の方に大きな山と大きな川があります。そ  
20 のもっと南に町があります。そこには大理石がたくさんあ  
21 ります」  
22 「そうか。だれがそこへ大理石を取りに行くのか？」  
23 「それは、今、町に来た大男がいいでしょう。大男はとて

<sup>1</sup>'koning'

<sup>2</sup>'zelig'

<sup>3</sup>informele pendant van でしょう

<sup>4</sup>'prachtig, indrukwekkend'

<sup>5</sup>'marmer'